

# 徳島県総合計画審議会 会議録

日時

平成16年2月19日(木) 13:30～15:50

会場

県庁10階大会議室

出席者

【委員】40名中26名出席

臼杵秀子委員、大松長勝委員、大南信也委員、岡本富治委員、  
後藤修三委員、小林陽子委員、近藤光男委員、近藤和義委員、  
近藤安子委員、敷島のり子委員、須見照彦委員、住友俊一委員、  
曾良寛武委員、谷本マツエ委員、中央子委員、西川政善委員、  
畠山正夫委員、早朝ミツ子委員、原宗一委員、布川嘉樹委員、  
藤坂菊市委員、藤本貴子委員、松崎美穂子委員、村澤普惠委員、  
森本尚樹委員、吉野美保委員

【県】知事、企画総務部長、各部局次長、総合政策室長 ほか

会議次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議題
  - (1) オンリーワン徳島行動計画について
  - (2) 意見交換
  - (3) その他
- 4 閉会

《配付資料》

- 1 オンリーワン徳島行動計画(案)
- 2 オンリーワン徳島行動計画(案)の概要
- 3 第1回総合計画審議会における意見の反映等について
- 4 第2回総合計画審議会における意見の反映等について
- 5 徳島県総合計画審議会会議録

## 議事録

- 1 開会
- 2 あいさつ  
飯泉知事からあいさつ。
- 3 議題 (1) オンリーワン徳島行動計画について  
事務局から配付資料に基づき、行動計画(案)等について説明。  
会長から審議会の経緯についてまとめ。
- 4 議題 (2) 意見交換

### ( 委 員 )

木質未使用資源をバイオマスエネルギーとして利用するということで、利用実施例が15年が2件で18年が4件というのは、少ないのではないか。バイオマスエネルギーは、温暖化ガス排出はゼロで、廃棄物ゼロ社会づくりにも大きく貢献できるエネルギーであり、環境首都を目指すためにも、このバイオマスエネルギーにもっと力を入れてもらいたい。

### ( 農林水産部 )

本県では、木質バイオマス利用推進事業の取り組みをしている。昨年12月には学識経験者、関係企業による徳島県木質バイオマス利用検討会を組織し、本県の実状に即した検討をこれから開始するところである。平成16年度中には、木質バイオマス利活用にあたっての基本指針を策定するように進めて参りたい。現状の2件と目標の4件については、今後の検討の中で考えていきたい。

### ( 委 員 )

南海道地震対策として、公共的な古い建物、人がたくさん集まる建物等について、県として改善するよう行政指導してもらいたい。中学校も、広域的に統合して、耐震構造の校舎を建設していくというような行政指導をして欲しい。

市町村合併は、県からこの地域とこの地域は合併したらどうかというような、積極的な指導が欲しい。

那賀川の長安口ダムの改善では、下流の住民としては、自然の産物を下流に流して欲しい。周辺の森林も、利水保水の考えから力を入れて欲しい。

基礎教育のやり直しというものを県が市町村に指導するか、県営でそういう対応をできる学校が欲しい。

( 県民環境部 )

県有施設全般の耐震化については、昨年 12 月末に診断から入ることで計画を作っている。市町村等から要望の強い学校や公民館など人の集まりやすい施設の耐震化は、国等の制度の活用のほか、市町村振興資金貸付金に地域防災対策資金という新たな枠を設けて進めていくことを考えている。

市町村合併は、合併特例法期限を目途に、積極的に市町村とともに進めて参りたい。期限後は、市町村とともに、今後のあり方を含めた検討を進めて参りたい。

( 県土整備部 )

公園施設については、改修の時期に耐震に対応して参りたい。

那賀川の問題については、那賀川フォーラム 2030 で議論しているので、その議論を待って参りたい。

県営住宅については、建て替え時期に耐震化を図る計画を進めている。

( 教育委員会 )

県立学校は、平成 16 年度から平成 18 年度の 3 か年で順次耐震診断を行い、改築する計画を立てている。

小・中学校の統合を含めたあり方については、教育改革という大きなスタンスでは検討を進めていく必要があると認識している。

学力低下の問題では、ティームティーチングや習熟度別授業を取り入れている。

( 委員 )

耐震については、公共的な民間団体等の建物は、県から厳しくチェックして行政指導していただきたい。

( 委員 )

スポーツ王国づくりでは、プレイをするスポーツよりもみるスポーツが優先されている感じがする。配列の順番を検討していただきたい。

スポーツ施設の運用の面では、利用団体との調整を十分配慮して参りたい。

スポーツ医科学では、徳島大学に国立大学で唯一の栄養学科があり、栄養面を重視すればどうか。

競技力の向上では、中学生が健闘しているが高校生になると落ちる。スポーツの面でも、中高一貫を行っていただきたい。

LED の信号機の割合は、18 %になったときに、全国で 1 位を占めているのかどうか。

( 教育委員会 )

スポーツ施設の運用においては、各団体間の競技場使用の調整を行っているが、Jリーグとか新しい動きもあるので、スムーズにいくよう配慮して参りたい。

スポーツ医科学について、メディカルチェックは先進県であり、ますます醸成していきたい。

高校生の競技力の向上では、中学生が優秀な指導者を求めて県外に出ていくケースも聞いている。指導者の確保が求められており、競技力の向上に向けて検討して参りたい。

( 警察本部 )

LED 信号機は東京都が進んでおり、2 番目は奈良県の 12 %。18 %になると全国 2 位になると思われる。

( 知 事 )

今回の当初予算分で 13.1 %になり、奈良県は十分に抜くことになる。

( 委 員 )

1 位を目指して欲しいという意味である。

( 委 員 )

新鮮ブランド戦略で、地産地消を基本に県内消費を拡大とあるが、この表現では矛盾があるのではないか。全国どこでも地産地消が言われている中で、それをうち破って、とくしまブランドを確立していこうという考え方と地産地消を基本とすることは、逆ではないのか。

( 農林水産部 )

地産地消と京阪神への売り込みを図ることについては、基本的に産地を育成し、消費者に届けるという意味で、矛盾しないと考える。地元の消費者の意向や趣向を産地がつかんで生産し、新たなブランド化を進めていくことで、克服できると考えている。

( 委 員 )

農業者や農業団体は、マーケティングということで、日本全国を市場にしていくという考え方でないとこれからはやっていけないのではないか。

( 知 事 )

県内の消費者は舌が肥えているということを前提に、県内で選別され洗練されたものをブランドとして売り出し、さらに磨きをかけていこうという趣旨が入っている。

( 委 員 )

四国のみちづくりで、不法に捨てられたゴミが目立って汚かったという記事が出ていたが、どこかがリーダーシップをとって、力を入れてもらいたい。

( 企画総務部長 )

いやしのみちに着目して、それを魅力あるものにするというアプローチと、環境美化にどのような主体が取り組むかという課題の中で、いやしのみちをどうするかという問題の、複数にまたがってくる部分がある。リーダーシップということがあるが、県政の進め方として、連携、協働という観点から整理して対応していきたい。

( 委 員 )

廃棄物ゼロ社会づくりで、県内に中間処理施設がなく香川県の業者に委託しているという状況なので、県内に施設ができるように計画に入れておいてもらいたい。

( 県民環境部 )

環境関連産業を創出していけるような環境づくりを含め、ゼロエミッションの推進の中に、支援制度を創設することを記載している。環境関連産業の育成について、商工サイドとも協議しながら進めて参りたい。

( 知 事 )

環境関連産業で、リサイクル処理をできるような企業も新しい産業として育成していこう、誘致をしていこうということはゼロエミッションの推進で言っている。業界として、ゼロエミッションを進めてもらうための支援は考えている。

( 委 員 )

目標水準は、個数や%がたくさん増えているが、厳しい予算や財政のことを考えると、このままやっていけるのか心配である。数を増やさなくても中身をもっと充実するとか、密度を深めるという項目があるのではないか。

( 企画総務部長 )

限られた財源で様々な施策を実施するが、施策の見直しを行う中で、施策の質、充実度等をよく検討したい。数値目標は、我々にとって厳しい部分もあるが、分かりやすく県民にも理解いただけることから、このような目標値として掲げさせてもらいたい。

( 会 長 )

進行管理は、PDCA サイクルでフォローしながらになっているので、部長の話を含めて進めてもらおうと、計画のよりよい実行ができるのではないかと。

( 委 員 )

過疎地では子どもの数が減少することにより、中学校で専門教科を教える教員がいない場合ができています。主要教科だけでもカバーできるように、人事の工夫や追加配置をしてもらいたい。

世界レベルの芸術文化は「(舞台芸術)」となっているが、「など」を加えて門戸を広げ、世界レベルかどうかという対応をしたほうがいいのではないかと。

徳島の魅力を活かした観光地づくりで、「伝統芸能、伝統技術など」という記述があるが、伝統芸能や伝統技術を含んでいなければならないのか、地域資源の一例としてなのか、お尋ねしたい。

観光客の受入態勢の充実強化というところで、英語・中国語・韓国語版の全県地図や徳島市街地の地図をぜひ作っていただきたい。

( 教育委員会 )

過疎化で子どもの数が少なくなると、どうしても教員の数が制限されてくる。複数校を掛け持つとか、複数学科の免許のある人を配置するなど、子どもたちにとって、できるだけ専門の先生がいないということがないように努力したい。

( 県民環境部 )

基本的に現段階では舞台芸術を考えているが、もう一度検討したい。

( 商工労働部 )

「伝統芸能、伝統技術」は地域資源の一例ということで挙げている。

英語、中国語等の全県的地図、市街地の地図は、現状ではない。徳島駅周辺、観光ガイドに地図の入ったものはあるが、どのようなものかイメージについてご提示いただき、検討したい。

( 委 員 )

防災施設の整備で、ヘリコプターがあるが、阪神淡路大震災の教訓として、ヘリコプターの音で助けを求める声が聞こえにくいということなので、24時間飛ぶのではなくて、サイレントタイムといった部分もつくっていったほうがよい。

( 委 員 )

子どもの教育こそがこれからの徳島県をつくっていく大切なことである。  
子どもが安心して安全に教育が受けられるように、人の配置や施設面のことを、子どものびのびプランの主要事業に反映させてもらいたい。

( 教育委員会 )

学校の安全は、一方では開かれた学校、一方では警備などの逆の命題を進めていかなければならない。地域との協働で地域の子どもたちを守っていくという形をつくっていくかざるを得ないのではないか。

( 委 員 )

学校は地域の方のボランティアでいいのかという問題がある。人の配置ということで考えていただききたい。

( 委 員 )

鴨島小学校では、PTA の希望者が時間交代でパトロールしていた。地域の見回りをするのに、腕章が 800 円するのでどうするか相談しているということであった。そういう形でも支援していただけたらいいのではないか。

国際交流やカウンセラーで小・中学校に行くが、教員に国際性の意識や日本語を大切にすることを意識を持ってもらいたい。

( 教育委員会 )

学校の安全の確保は、教職員だけでどこまでカバーできるかというところもあり、行政ができることを検討したい。

教員自身がいろいろな感性を磨くために、教職員研修を含めて、もっと効率的なやり方、視点を変えたやり方を進めていきたい。

( 委 員 )

虐待防止ネットワークが市町村に設置されているが、保育所での児童虐待の問題にネットワークがどこまで機能をしているのかということがある。ネットワークのほうの研修も積んでもらいたい。

スクールカウンセラーは中学校に設置だが、低年齢化しているいじめ・不登校の問題で、小学校から継続して子どもたちの悩みを聴いてくれる機関を設置していただきたい。

( 保健福祉部 )

虐待防止ネットワークは市町村にお願いしているが、配置されていない部分があるので、今後計画的に実施して参りたい。

保育所の件については、アドバイスが十分効果的でなかった面もあるので、今後事前防止、再発防止に努めていきたい。

( 教育委員会 )

担任の先生、教頭先生、校長先生がいて、支援体制は当然できていると思う。いじめや不登校の問題にまっすぐ向き合うように、これからも指導して参りたい。

( 委員 )

ニュースで、15歳から25歳までの5分の1が就学も就職もしていない時代になっているということであった。そういう世代に向けて、生涯学習をしっかりしていかなければいけない。青年向けに、団体の活動支援、個人個人が集まれる場所や活動の提供を盛り込んでもらいたい。

Jリーグチームは、気運の醸成にもっと真剣に取り組まないと大きな課題を残すのではないか。

( 県民環境部 )

青少年の健全育成の観点から「とくしま青少年プラン21」を策定し、いろいろな施策を展開している。青少年を指導していくリーダー等の活動に対し、青少年団の育成を考えている。場の提供では、青少年センターを活用して、今後とも若い人たちの交流ができるように工夫していきたい。

( 企画総務部長 )

Jリーグは1月の終わりに推進協議会を立ち上げたところだが、併せて県民気運の醸成についても、今まで以上に様々な節目を捉えて対応していきたい。

( 委員 )

ブランド品目の振興とブランド産地の育成で、高付加価値化につながる生産施設や出荷流通体制の整備に対する支援とあるが、農業団体として効率化を進める中で、施設の統廃合が法的制約により課題となっている。この支援には、統廃合への柔軟な対応が含まれているのかどうか。

( 農林水産部 )

産地育成や販売戦略の構築に対する支援は従来以上に考えているが、大きな枠組みを変えるものではない。農業団体と行政と合い携えて取り組む中で、問題を乗り越えられるのではないかと考えている。

( 委員 )

以前に光景観の創造事業の一環として、ひかりプロムナード実施計画の会合などが行われて、ひょうたん島を船で周遊しながら光を楽しむという方向で話が進んでいたが、その後会合がなくなっている。まちの景観の一環として取り組んでいただきたい。

( 県土整備部 )

新町川河畔ひかりプロムナード整備を進めている。以前の形がそのままかどうか分からないが、当時のイメージに合うような形で整備が進められていると理解している。

( 委 員 )

16年17年18年の3か年計画になると、国の三位一体の計画と一緒にの時期であり、三位一体の計画が進行する中で、行動計画が骨抜きになる可能性はあるのかどうか。

とくしま合併戦略の展開で、徳島版地方分権というような項目を目だしすることが必要ではないか。

( 企画総務部長 )

3年間で符合する中で、この計画をどう考えていくかだが、具体的な事業で16年度当初予算に盛り込まれているものが相当ある。着実に進める中、チェックし見直すことで、足らざる部分や補う部分の見直しは毎年度あるだろう。ただし、視点や柱立てなど大きな骨格がこの3年間で変わっていくことはないと考えている。

( 県民環境部 )

県としては、市町村合併を進めている。その後、市町村・県全般を見てどのような形をとるのかということが出てくるが、まだやはり市町村の基盤を強化していくという形での合併構想というものを書いているところであるので、ご理解いただきたい。

( 委 員 )

Jリーグチームについて、知事先頭で実現して欲しい。平成9年頃サッカー場を県内に造るという計画があったが、今回は以前のような計画があるのかどうか。

( 企画総務部長 )

施設については、鳴門の総合運動場の必要な改修ということで対応したい。

( 委 員 )

教育の問題で、読み、書き、計算ということがあるが、これに話すということを入れて欲しい。社会では建設的な発案をできる能力が問われている。

もてなし観光講座を開催するとあるが、外国人のもてなしということを入れていただきたい。外国人ということで旅館ホテルから泊まれるのを断られることがある。おもてなしの心でリピーターは増えていくのではないか。

男女共同参画の拠点がアスティとくしまにできるということだが、男女共同参画の活動をしている団体に、どのような施設が必要かという声を吸い上げていただきたい。

5 議事 (3) その他

意見があれば、後日でもよいので、事務局へ連絡してもらいたい。

第2回の審議会の会議録の公開について提案し、了承された。

第3回の審議会の会議録は、会長が確認の上、速やかに公開することを提案し、了承された。

審議会終了後、会長と知事で行動計画(案)について、記者会見する。

6 閉会

飯泉知事からあいさつ。